

研究課題名	【演題番号 16】 母乳中 micro RNA が食物アレルギー発症に及ぼす影響
フリガナ	ナカノ タイジ
代表者名	中野 泰至
所属機関（機関名） （役職名）	千葉大学医学部附属病院 小児科 助教
本助成金による 発表論文，学会発表	

研究結果要約

我々はハイリスク出生コホート研究（CHIBA study）において 4 か月までの母乳栄養が 1 歳時点での卵白感作のリスク因子となることを報告した。また、他の独立した出生コホート研究（Katsushika study）においても同様に母乳栄養が 9 か月時の卵白のリスク因子となることが分かった。母乳には多数の miRNA が含まれており、その多くが免疫に関連しているとされている。さらに、母乳中の miRNA は胃の酸性環境でも安定しており、乳児の免疫システムの早期発達に寄与する可能性がある。一方で、食物アレルギーとの関連はまだ明らかにされていない。そこで今回、母乳中 miRNA が食物アレルギー発症にどのように関わっているかを検討するためを目的として本研究を行った。本研究では、CHIBA study の 1 か月時の母乳サンプルを用いて、鶏卵アレルギーの有無による miRNA の違いを Toray の Human miRNA Oligo Chip を用いて網羅的に解析を行った。鶏卵アレルギーのある児では、母乳中の Has-miR-342-5p, 3192-5p, 551b-5p が有意に低下していた。特に miR-342 は、VEGF シグナル伝達や TGFb シグナル伝達に関与しており、食物アレルギー発症に関係している可能性が示唆された。今後、機能解析を進める予定である。